

家畜の暑熱対策

平年、7月20日前後に関東甲信越の梅雨が明けます。梅雨の晴れ間や梅雨明け直後には、実際の気温よりも体感温度はかなり高くなります。乳用牛等大家畜にとっては、急激な気温の上昇は大きなストレスになりますので、下記の事項を参考に暑熱対策を徹底して、事故防止に努めましょう。

1 畜舎対策

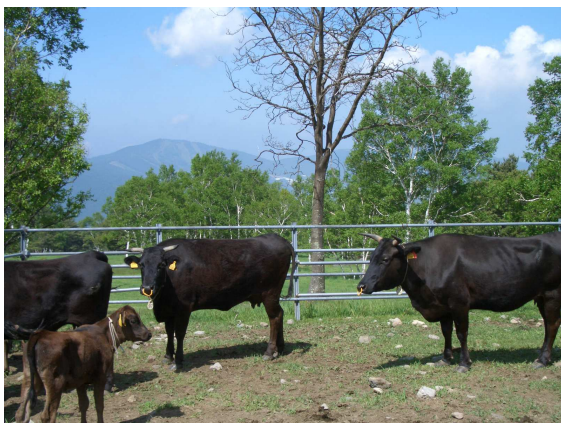
- (1) 畜舎の窓・戸を開放するなどして、換気・通気に注意する。
- (2) 換気扇・扇風機・ポリダクト等の送風・通気器具を持っている場合にはそれらを充分活用し家畜の体感温度の低下に努める。
- (3) 畜舎の屋根へ散水又は消石灰等の塗布を行い舎内温度の低下に努める。
- (4) よしずや寒冷紗で直射日光を遮り、温度の上昇を抑える。
- (5) 天井の低い畜舎では、逆に窓を閉じて一方から「負圧換気」することにより、畜舎内に新鮮な空気が流れ、防暑効果が高くなる（トンネル換気）。
- (6) パドック等には、日よけを設ける。



※畜舎環境は清潔に

2 家畜対策

- (1) 飼育密度を検討して出来るだけ薄飼いにするとともに、給水にあたっては給水器の作動状況を確認し常に新鮮な水が飲めるようにしておく。涼しい夜間に一部でもパドックに出す。
- (2) 夜間などの涼しい時間帯の飼料給与、あるいはパドックでの飼料給与を行なうとともに、嗜好性・栄養濃度の高い飼料の給与で食欲と栄養を確保する。なお、暑さによる消耗を考慮し、ビタミン、ミネラル類を通常より多目に給与する。
- (3) 後躯から乳房にかけての毛刈りは、乳牛の体感温度を2～3℃低下できるとともに搾乳衛生にも効果的である。
- (4) 行動、糞便等をよく観察し、異常畜の早期発見・早期治療に努める。



※こまめな観察で異常畜の発見を!